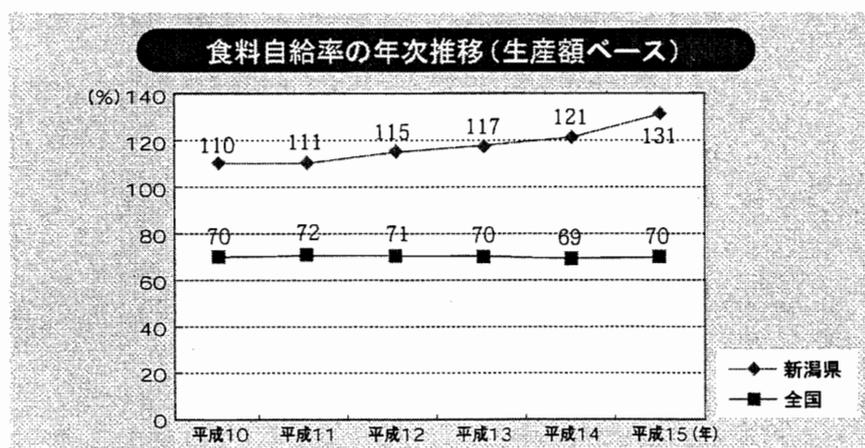
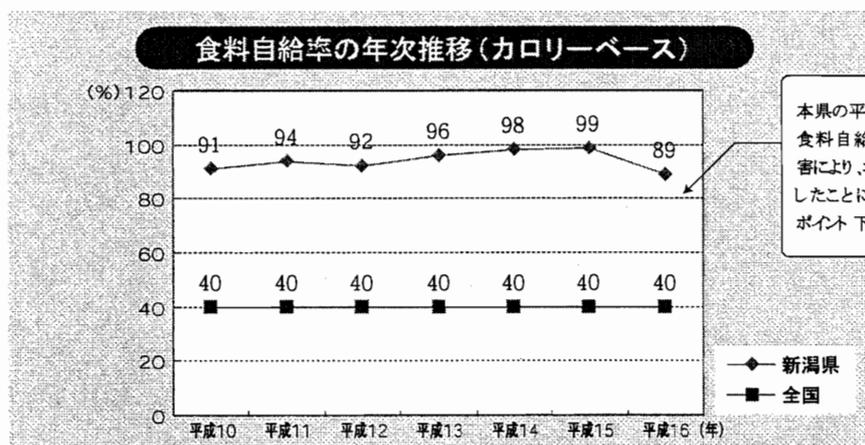


食料自給率の年次推移

出典：「新潟県食育推進計画」（平成19年3月）

本県の食料自給率は、カロリーベースでは89%（全国第6位、平成16年度概算値）、また、生産額ベースでは131%（全国第13位、平成15年度確定値）となっており、付加価値の高い生産が行われています。



(出典:農林水産省)

新潟県のメタボリックシンドローム等の状況

平成18年県民健康・栄養実態調査報告(平成19年9月)

無作為抽出された県内調査地区に居住する20歳以上の住民を対象

①身体状況調査：11地区の245世帯719名身体計測、問診、血液検査等

②アンケート調査：46地区の885世帯2,446名

<結果の概要>

1 身体状況調査※

項目	区分	男性	女性
1 メタボリックシンドローム	該当者	18.7%	9.0%
	予備群	23.1%	9.7%
	計	41.8%	18.7%
2 肥満	上半身肥満の疑いの者	27.6%	17.4%
3 糖尿病	有病者	10.4%	6.6%
	予備群	15.3%	17.6%
	計	25.7%	24.2%
4 高血圧症	有病者	52.3%	40.3%
	予備群	17.3%	16.0%
	計	69.6%	56.3%

※身体状況調査の結果は、データの信頼性を確保する観点から必要な分析対象数を得るため、平成15年～18年の調査結果をあわせて集計したものである。

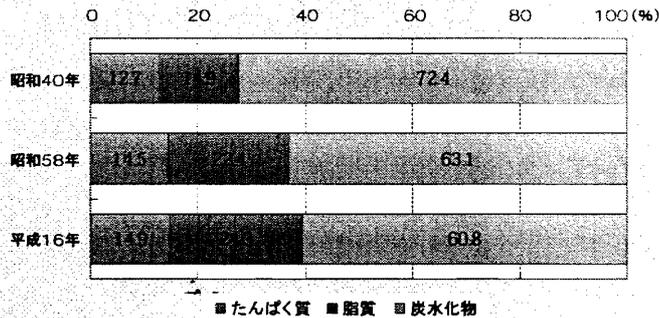
2 アンケート調査

- 健康づくりへの心がけや実践をしている人・・・91.2%
- 過去1年間に健診、人間ドックを受けた人・・・72.1%
- メタボリックシンドロームを認知している人・・・50.0%
- 食育という言葉を知っている人・・・65.3%、意味まで理解している人・・・27.5%
- 食育に関心を持っている人・・・59.8%

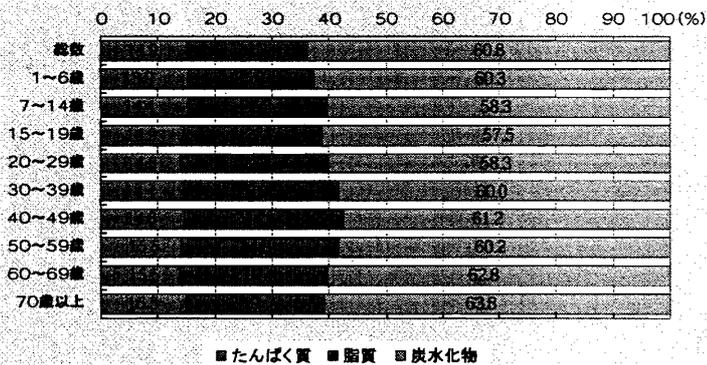
栄養摂取等の状況

エネルギーの栄養素別摂取割合を年次推移で見ると、主食である米等の穀類を主体とする炭水化物が減少し、脂質が増加しています。また、年代別にエネルギーに占める脂質の割合をみると、30歳代が目標量の上限である25%を超えています。

エネルギーの栄養素別摂取構成比の年次推移(新潟県)



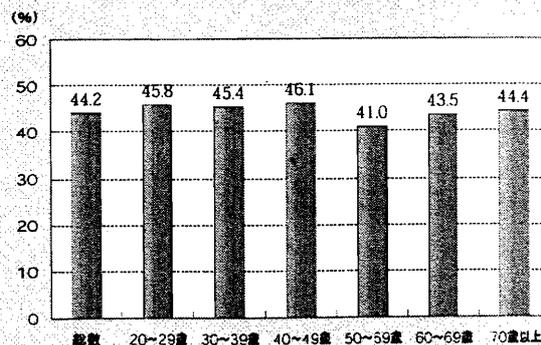
エネルギーの栄養素別摂取構成比:年齢別(新潟県)



(出典:平成16年県民健康・栄養実態調査)

成人1日当たりの穀類エネルギー比率は、年齢別にみるといずれの年代も適正とされる50%に達していません。

1日当たりの穀類エネルギー比率(年齢階級別)



(出典:平成16年県民健康・栄養実態調査)

朝食の欠食率・昼食の外食率

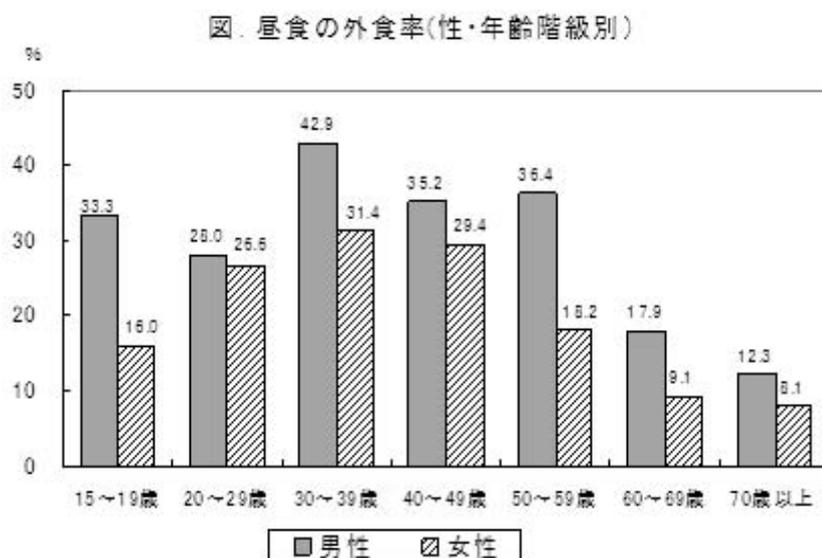
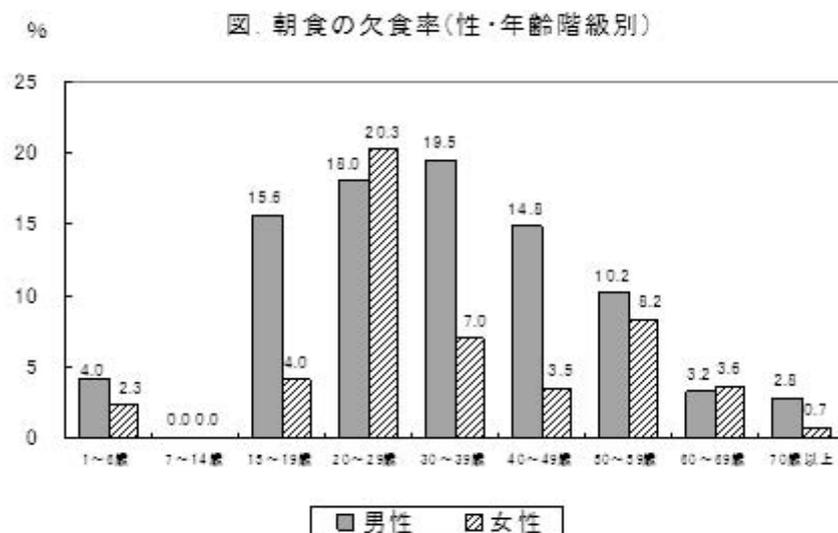
(平成 16 年県民健康・栄養実態調査報告)

- 調査の対象及び項目
新潟県内の調査地区（新潟市除く）から無作為抽出した世帯及び 1 歳以上の世帯員 2,252 名を対象に調査を実施
- 調査時期
平成 16 年 11 月

○ 朝食を食べない人は、男性では30歳代の19.5%、女性では20歳代の20.3%が最も高率

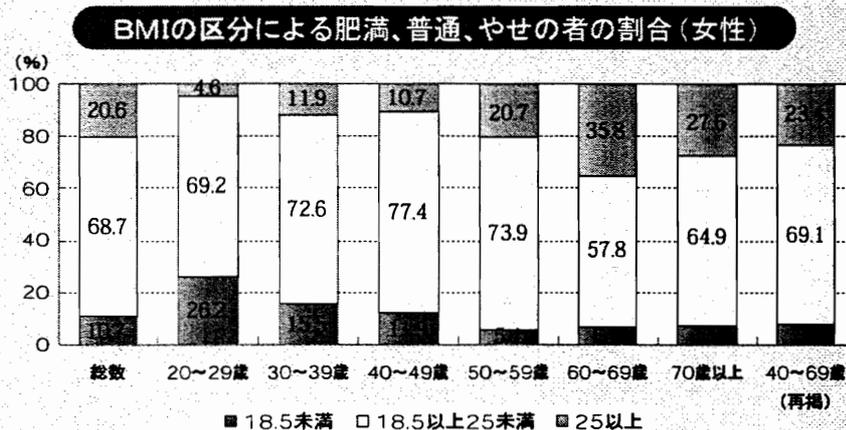
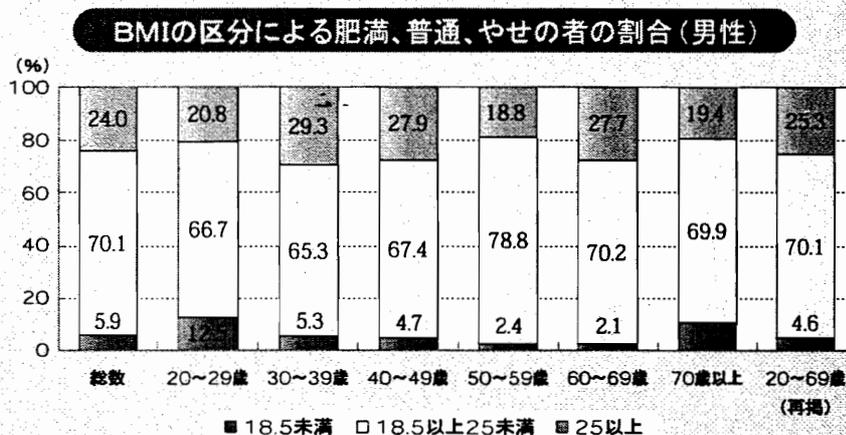
○ 昼食の外食率は、30～50歳代男性で30%以上

朝食を食べない人は、男性では 15～19 歳で高くなり、30 歳代で 19.5 % と最も高い。また、女性では 20 歳代が 20.3 % と最も高い。昼食の外食率は、男性女性ともに 30 歳代で男性 42.9 %、女性 31.4 % と最も高い。



肥満とやせの状況

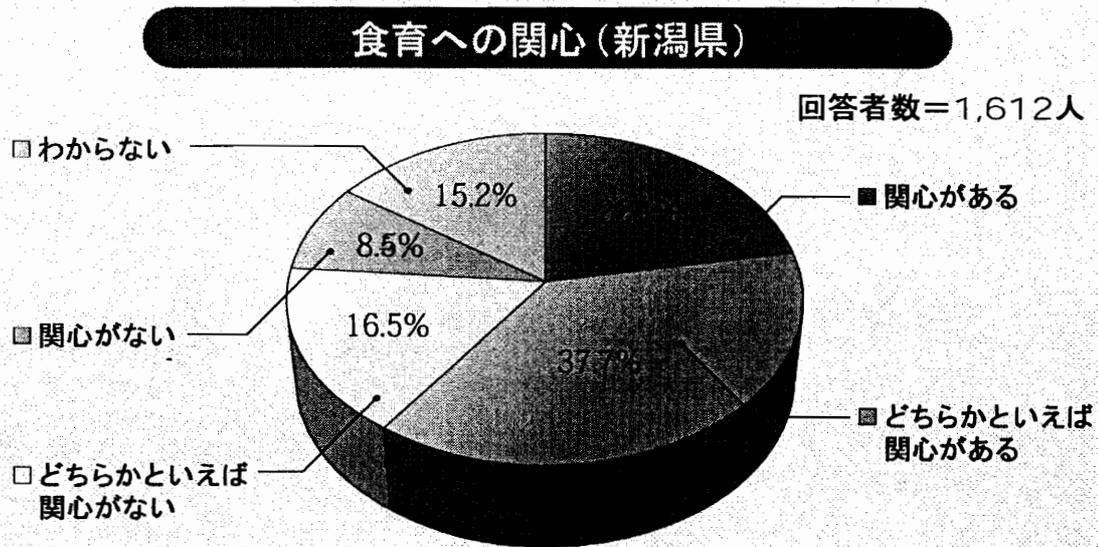
20～60歳代の男性25.3%、40～60歳代女性の23.4%は「肥満」と判定されています。一方、20歳代女性の26.2%は「やせ」と判定されています。



(出典:平成16年県民健康・栄養実態調査)

食育への関心

約 6 割の人が食育に関心を示しており、その理由として「生活習慣病の増加」「食生活の乱れ」「子供の心身の健全な発育に必要」をあげています。



（出典：平成18年県民健康・栄養実態調査）

給食施設数・管理栄養士・栄養士数
(特定給食施設 内訳)

平成18年度末現在

		総 数			管理栄養士のみの施設		管理栄養士・栄養士どちらもいる施設			栄養士のみの施設		管理栄養士・栄養士どちらもいない施設数
		施設数	管理栄養士数	栄養士数	施設数	管理栄養士数	施設数	管理栄養士数	栄養士数	施設数	栄養士数	
指定施設	全国	2,777	7,677	5,617	871	2,081	1,592	5,596	5,287	232	330	82
		100.0%	—	—	31.4%	—	57.3%	—	—	8.4%	—	2.9%
	新潟県	45	117	53	23	71	21	46	50	1	3	—
		100.0%	—	—	51.1%	—	46.7%	—	—	2.2%	—	0.0%
1回300食以上又は1日750食以上	全国	14,030	6,854	7,810	4,411	4,869	1,168	1,985	2,166	5,019	5,644	3,432
		100.0%	—	—	31.4%	—	8.3%	—	—	35.8%	—	24.5%
	新潟県	306	133	189	71	96	25	37	31	137	158	73
		100.0%	—	—	23.2%	—	8.2%	—	—	44.8%	—	23.9%
1回100食以上又は1日250食以上	全国	30,665	16,887	21,978	4,991	6,660	6,827	10,227	12,122	7,670	9,856	11,177
		100.0%	—	—	16.3%	—	22.3%	—	—	25.0%	—	36.4%
	新潟県	891	340	363	121	157	133	183	189	160	174	477
		100.0%	—	—	13.6%	—	14.9%	—	—	18.0%	—	53.5%

平成18年度 保健・衛生行政業務報告

(注1) 特定給食施設であって特別の栄養管理が必要なものとして厚生労働省令で定めるところにより都道府県知事が指定するものの設置者は、当該特定給食施設に管理栄養士を置かなければならない。(健康増進法第21条第1項)

(注2) 特定給食施設のうち、1回300食又は1日750食以上の食事を供給するものの設置者は、当該施設に置かれる栄養士のうち少なくとも1人は管理栄養士であるように努めなければならない。(健康増進法施行規則第8条)

新潟県内管理栄養士・栄養士養成施設設置状況

管理栄養士養成施設

名 称	所在地	入学定員(人)	修業年限	指定年月日
新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科	新潟市	40	4年	平成13年4月1日
北里保健衛生専門学校 栄養専門課程管理栄養科	南魚沼市	80	4年	平成16年4月1日
北陸食育フードカレッジ 管理栄養士学科	長岡市	40	4年	平成19年3月27日
合 計		160		

栄養士養成施設

名 称	所在地	入学定員(人)	修業年限	指定年月日
悠久山栄養調理専門学校 栄養専門課程栄養士科	長岡市	80	3年	平成8年4月1日
県立新潟女子短期大学 (生活科学科食物栄養専攻)	新潟市	40	2年	昭和38年3月30日
県立新潟女子短期大学 (専攻科食物栄養専攻)	新潟市	10	4年	平成7年4月1日
合 計		130		

新潟県内の栄養士・管理栄養士就業状況

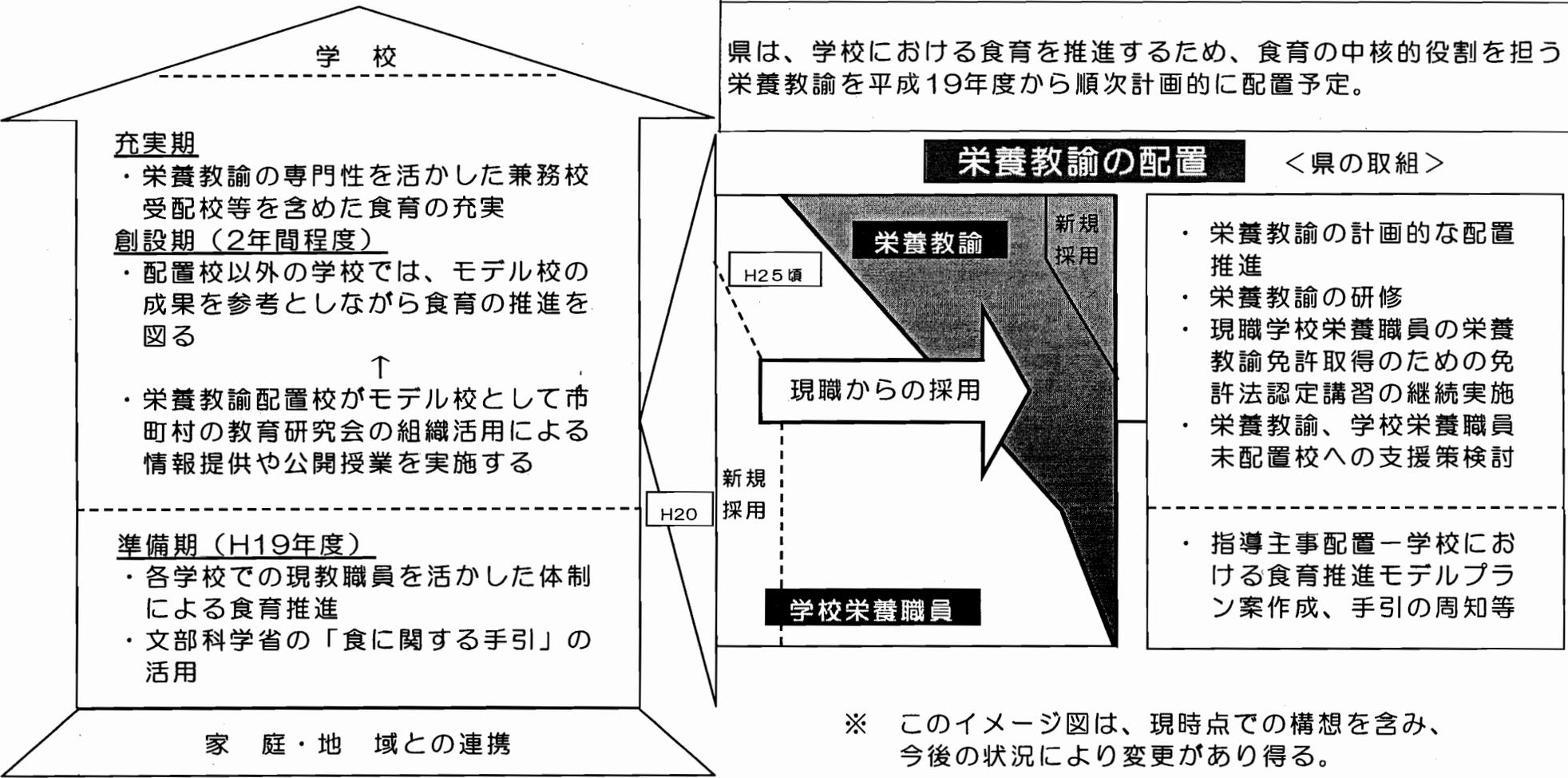
平成19年3月31日現在

	総 数	行 政	学 校	病 院	介 護 老 人 保 健 施 設	老 人 福 祉 施 設	児 童 福 祉 施 設	社 会 福 祉 施 設	事 業 所	寄 宿 舎	自 衛 隊	料 理 学 校	栄 養 士 養 成 施 設	調 理 師 調 整 施 設	そ の 他	在 宅 栄 養 士 で 保 健 衛 生 に 従 事 す る 者
就業者数	1,944	148	368	406	147	461	74	93	57	14	4	3	37	24	108	156
管理栄養士	946	108	136	283	94	184	11	22	8	4	1	0	35	18	42	78

※ 総数には、在宅栄養士で保健衛生に従事する者は含まない。

学校における食育の推進

— 学校における食育の推進と栄養教諭の配置イメージ —



学校栄養職員等配置状況（新潟県）

(1) 栄養教諭・学校栄養職員等配置状況総括表

平成19年5月1日現在

区分		配置人数						
		合計	常勤者			非常勤		
			計	県費負担	市町村費負担	計	県費負担	市町村費負担
小学校		110	101	87	14	9	5	4
中学校		46	46	45	1			
特別支援学校	盲学校	1	1	1				
	聾学校	2	2	2				
	養護学校	8	7	7		1	1	
夜間定時制高等学校								
共同調理場		108	104	103	1	4	4	
県教育委員会(栄養教諭)		2	2	2				
市町村教育委員会		25	24		24	1		1
県学校給食会		1						
合計		303	287	247	40	15	10	5

※学校給食を実施している公立学校及び共同調理場において、栄養士の資格を有し、献立作成、栄養指導等に携わる者並びに教育委員会・県学校給食会において栄養士の資格を有し、学校給食の指導等に携わる者を計上している。

※勤務の実態に応じて計上している。(小学校発令でも共同調理場に勤務する者は「共同調理場」に計上する。

※小・中併置校勤務の者は、「小学校」に計上する。

出典:「学校給食実施状況等調査」

GPA 制度を用いた成績評価と学習指導

1 GPA 制度

教育の質を確保する観点から、国際的に通用し、公平性・透明性に優れた基準である、Grade Point Average（評定平均値。以下「GPA」とする。）制度を全学的に導入する。GPA は成績を数値化して成績を評価するため、定期試験等の成績評価を A～F、および X をもって表示し、F と X を不合格とする。

GPA の取得単位を成績で重み付けて点数化し、その合計を履修単位数の合計で割った値である。科目それぞれの成績も重要であるが、学期の履修科目トータルで成績を評価することができる。

2 GPA の計算方法

GPA の計算方法と各授業科目の成績評価に基づくグレード・ポイント（GP）は以下の通りである。

・各科目の成績評価に基づくグレードポイント（GP）

成績評価	成 績	合 否	グレードポイント (GP)
A	90 点以上	合格	4.0
B	80 点以上 90 点未満		3.0
C	70 点以上 80 点未満		2.0
D	60 点以上 70 点未満		1.0
F	60 点未満	不合格	0
X	受験資格の喪失 (出席数不足等)	—	0
T	認定単位 (他大学等の単位互 換科目)	合格	GPA 計算対象外

・GPA の算出方法
GPA の算出方法は、次の計算式による。
GPA = (履修した授業科目の単位数 × GP) の合計 / 履修単位数の合計

3 単位の認定

授業科目を履修したものに対して、原則としてその科目の授業を完了した学期末において試験を実施し、合格した者に単位取得を認定する。ただし、演習、実習、実技、卒業研究等の科目は定期試験を行わないことがある。

成績評価は担当教員の授業方針・評価方針により、平素の学修状況、試験、レポート、発表、討議により、目標達成率を評価する。

4 追試および再試験の成績評価基準

追試および再試験の成績評価の基準は以下のとおりとする。

- 1 やむを得ない事由のため、試験を受けることができなかった学生に対しては、本人の願い出により、追試験を行うことができる。
- 2 追試験の成績評価は90点を上限とする。
- 3 単位習得に必要な成績を得ていない者を対象に、本人の願い出により再試験を行うことができる。
- 4 再試験の成績評価は69点を上限とする。

5 成績評価についての異議申し立て

成績の誤記入等の明らかに担当教員の誤りであるもの、及びシラバス等で周知している成績評価の方法から明らかに評価方法等について疑義があるものについて、異議申し立てを受け付ける。

異議申し立ての回答は、原則1週間以内に口頭又は文書により行う。

6 「卒業研究」履修条件

- (1) 卒業研究を履修できる条件は以下のとおりである。
 - ① 休学期間を含まないで3年以上在学していること。
 - ② 卒業研究履修前段階での累積GPAが2.00以上であること。
 - ③ 3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること及び学科ごとに定める科目の単位を修得していること。
- (2) 前項の規定にかかわらず教授会が適当と認めた場合には卒業研究を履修できるものとする。

7 卒業の要件

- (1) 本学を卒業するためには、4年以上在学し、各学科が定める内容に従い、卒業要件単位128単位以上を修得しなければならない。

8 学修指導

- ① 1つの学期（1 Semester）のGPAが2.00未満となった学生は、本人を呼び出しアドバイザーによる注意と指導を行う。
- ② GPA2.00未満が2学期（2 Semester）連続した学生は、本人及び保護者等を交え、アドバイザーの指導に従い、補習等の実施など、継続的な学修指導を行う
- ③ GPA2.00未満が3学期（3 Semester）連続した場合、または連続しなくとも通算で4学期になった学生は、本人及び保護者と学科長とが面接し、引き続き学修する意志の確認を行う。
- ④ GPA1.50未満が3学期（3 Semester）連続した学生は、学部長が退学を勧告する。

前項の規定にかかわらず、特別な事情がある場合は、学部教授会の議を経て在学の許可をすることがある。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	
		前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)		
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年) Lecture ●(通年) Effective Learning I ●	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年) Lecture ●(通年) 東アジアの諸言語●	Project English I ● Advanced Writing A○ 海外研修(英語) A	Project English II○ Advanced Reading B○	Business English A○	Business English B ○			英語(必修/選択必修) 19 単位 露中韓 2 単位 英語選択 4 単位 合計 25 単位	
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I ● 文章作成技法●	体育講義● 基礎ゼミ●		自然とスポーツ					9 単位	
	現代教養	国際学	国際学 A◎	国際学 B◎							14 単位
		新潟学	新潟県の経済と産業◆								
文明と文化				イスラーム文明史◇							
	人間社会理解	社会学▲	法学▲	日本国憲法▲							
展開科目	学部 共通 科目	導入科目	国際地域学 A ● 政治学入門● ミクロ経済学入門●	国際社会論● 比較文化研究入門● 東アジア研究入門● 地域環境学● マクロ経済学入門●	国際地域学 B ●	国際地域学 C ●					20 単位
		行政経済系科目			行政学● 公共政策論●	公共経済学△	財政学△				8 単位
		地域社会系科目			人文社会学● 多文化共生論△	地域社会学●					6 単位
	国際社会基幹科目			国際経済学▽ 国際関係論▽	開発経済学▽ 国際政治学▽ 国際法▽					10 単位	
	国際社会演習科目					開発経済学演習 I (基礎) ★ 海外経済事情★	開発経済学演習 II (展開) ★ 内外経済・金融動向分析 ★			8 単位	
	国際社会基礎文献講読					国際経済学基礎文献購読 A (理論) ★	国際経済学基礎文献購読 B (政策) ★			4 単位	
	国際社会選択科目						アジア経済開発論 現代ユーラシア研究	現代ヨーロッパ研究 日本外交論	自治体外交論	10 単位	
	その他の科目区分				環境経済学 国際資源・環境論	現代中国社会論	アメリカ社会文化史	東アジア地域統合論 グローバルガバナンス		12 単位	
	卒業研究							卒業研究●		4 単位	
	合計	18 単位 (10[14]科目)	31 単位 (14 科目)	20 単位 (11[12]科目)	23 単位 (12 科目)	11 単位 (6 科目)	13 単位 (7 科目)	6 単位 (3[4]科目)	6 単位 (2 科目)	128 単位 (65 科目)	
教職科目											
教職合計	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)	単位 (科目)		

●必修科目 ○英語の選択必修科目 ◎現代教養国際学選択必修科目 ◆現代教養新潟学選択必修科目 ◇現代教養文化と文明選択必修科目 ▲現代教養人間社会理解選択必修科目

△学部共通選択科目 ▽国際社会コース基幹科目選択必修科目 ★国際社会コース演習科目 & 基礎文献講読選択必修科目

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	
		前期 (1セメスター)	後期 (2セメスター)	前期 (3セメスター)	後期 (4セメスター)	前期 (5セメスター)	後期 (6セメスター)	前期 (7セメスター)	後期 (8セメスター)		
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)※ Lecture ●(通年) Effective Learning I ●	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)※ Lecture ●(通年) 海外英語研修(英語) B 東アジアの諸言語●	Project English I ● Advanced Writing A ○ Advanced Reading A ○ 海外英語研修(英語) B	Project English II ○ Current English B ○ Advanced Reading B ○	Business English A ○				英語(必修/選択必修) 19単位 露中韓 2単位 英語選択 3単位 合計 24単位	
	基本技能	情報リテラシー●※ 体育実技 I (基礎) ●※ 文章作成技法●	体育講義● 基礎ゼミ●		DTP・マルチメディア 演習					10単位	
	現代教養	国際学	国際学 A◎								12単位
		新潟学	新潟県の子育て子ども家 庭福祉◆								
文化と文明		文明と宗教(聖書学)◇									
	人間社会理解		ジェンダー論▲	道徳教育▲※ 日本国憲法▲※							
展開科目	学部共通科目	導入科目	国際地域学 A(国際関係) ● 政治学入門● ミクロ経済学入門●	国際社会論● 比較文化研究入門● 東アジア研究入門● 地域環境学● マクロ経済学入門●	国際地域学 B(開発経済) ●	国際地域学 C(地域政策) ●				20単位	
		行政経済系科目			行政学● 公共政策論●	公共経済学△				6単位	
		地域社会系科目			人文地理学●	地域社会学● 異文化コミュニケーション 論△				6単位	
	比較文化基幹科目			文化人類学▼ 言語学▼ 哲学・倫理学▼	比較宗教学 比較文学▼	言語文化論▼				12単位	
	比較文化総論科目				ヨーロッパ近現代史▽ 言語の科学 A(文法と意 義)▽	言語の科学 B(音声と音 韻)▽	心理言語学▽			8単位	
	比較文化各論科目			英文法 I(基礎)※	英文法 II(展開)※	英語圏の文化と思想※ 中国言語文化論 英語音声学※	英語圏文化・思想演習 アメリカ社会文化史 日本語概論	言語の原理と普遍性 B (英語統語論) ヨーロッパ言語文化論	英語教育と英米文学※	22単位	
	その他の科目区分					国際人権法	グローバル・エシックス			4単位	
卒業研究								卒業研究●		4単位	
合計		18単位 (10[14]科目)	29単位 (14科目)	25単位 (14科目)	21単位 (12科目)	13単位 (7科目)	10単位 (5科目)	4単位 (2科目)	6単位 (2科目)	128単位 (67科目)	
教職科目		教育学概論※	教職の意義※	教育心理学※ 英語科教育法 I(基礎)※	教育原理※ 教育制度※ 特別活動の研究※ 英語科教育法 II(実践)※	英語科教育法研究 生徒・進路指導※ 中等教育実習指導※	教職総合演習※ 教育方法・技術※ 教育相談※ 英語科教育法発展研究※ 中等教育実習 A(長期)※ 中等教育実習指導※	教育課程※ 中等教職実践演習※ 中等教育実習 A(長期)※ 中等教育実習指導※			
教職合計		2単位 (1科目)	2単位 (1科目)	4単位 (2科目)	7単位 (4科目)	4単位 (2[3]科目)	8単位 (4[6]科目)	9単位 (4科目)	0単位 (0科目)	36単位 (18科目)	

●必修科目 ○英語の選択必修科目 ◎現代教養国際学選択必修科目 ◆現代教養新潟学選択必修科目 ◇現代教養文化と文明選択必修科目 ▲現代教養人間社会理解選択必修科目

●学部共通必修科目 △学部共通選択科目 ▼比較文化コース必修基幹科目 ▽比較文化コース選択必修総論科目 ※教職科目

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	
		前期 (1セメスター)	後期 (2セメスター)	前期 (3セメスター)	後期 (4セメスター)	前期 (5セメスター)	後期 (6セメスター)	前期 (7セメスター)	後期 (8セメスター)		
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年) Lecture ●(通年) Effective Learning I ●	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年) Lecture ●(通年) 東アジアの諸言語●	Project English I ● Current English B○ Advanced Reading A○	Advanced Writing A○ Advanced Reading B○ CALL B○					英語(必修/選択必修) 19単位 露中韓 2単位 合計 21単位	
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I ● 文章作成技法●	体育講義● 基礎ゼミ●		DTP・マルチメディア演習					10単位	
	現代教養	国際学		国際学B◎							12単位
		新潟学		新潟県の東アジア交流◆							
	文明と文化			イスラーム文明史◇							
	人間社会理解	哲学入門▲ 文学▲	歴史▲								
展開科目	学部共通科目	導入科目	国際地域学A● 政治学入門● ミクロ経済学入門●	国際社会論● 比較文化研究入門● 東アジア研究入門● 地域環境学● マクロ経済学入門●	国際地域学B●	国際地域学C●				20単位	
		行政経済系科目			行政学● 公共政策論●	公共経済学△				6単位	
		地域社会系科目			人文地理学● 多文化共生論△	地域社会学●				6単位	
	東アジア共通科目				東アジア史★ 環日本海事情概論★	東アジアの社会と文化★	現代中国社会論 東アジア研究★		東アジア地域統合論		12単位
	中国語	中国語基幹科目			中国語 I A▽ 中国語 I B▽ 中国語コミュニケーション I ▽	中国語 II A▽ 中国語 II B▽ 中国語コミュニケーション II ▽	中国語表現演習 I A(聴解・作文) ▽ 中国語表現演習 I B(読解・作文) ▽ 中国語表現演習 I C(読解) ▽ 中国語コミュニケーション III ▽	中国語表現演習 II A(聴解) ▽ 中国語表現演習 II B(読解) ▽ 中国語表現演習 I C(作文) ▽ 中国語コミュニケーション IV ▽			22単位
		中国語選択科目			海外中国語研修 C (短期)			時事中国語	中国語表現演習 III 日中翻訳演習	中国語表現演習 IV	5単位
	その他の科目区分						中国の社会と文学 I 中国言語文化論	中国の社会と文学 II 中国言語文化演習		中国の思想	10単位
卒業研究								卒業研究●(通年)		4単位	
合計		16単位 (9[13]科目)	33単位 (15科目)	25単位 (14[15]科目)	20単位 (12科目)	13単位 (8科目)	10単位 (7科目)	4単位 (3[4]科目)	7単位 (3科目)	128単位 (71科目)	

●必修科目 ○選択必修5単位以上 ◎国際学 選択必修2単位以上 ◆新潟学 選択必修2単位以上 ◇文明と文化 選択必修2単位以上 ▲現代教養 △学部共通選択科目

★東アジア共通 必修8単位 ▽中国語基幹 選択必修12単位以上

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位128単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数
		前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)	
基盤科目	外国語	Core English● (通年) Writing ● (通年) Speaking ● (通年) Lecture ● (通年) Effective Learning I ●	Core English● (通年) Writing ● (通年) Speaking ● (通年) Lecture ● (通年) 東アジアの諸言語●	Project English I ● Advanced Writing A○	Project English II ○ Current English B ○	Business English A○	Business English B ○			英語 19 単位 露中韓 2 単位 合計 21 単位
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I ● 文章作成技法●	体育講義● 基礎ゼミ●		自然とスポーツ					9 単位
	現代教養	国際学 新潟学 文明と文化 人間社会理解	国際学 A◎ 文明と宗教◇ 社会学▲ 心理学▲		新潟県の保健医療◆ 美術▲					
展開科目	学部共通科目	導入科目	国際地域学 A (国際関係) ● 政治学入門● ミクロ経済学入門●	国際社会学● 比較文化研究入門● 東アジア研究入門● 地域環境学● マクロ経済学入門●	国際地域学 B (開発経済) ●	国際地域学 C (地域政策) ●				20 単位
		行政経済系科目			行政学● 公共政策論●	行政法△				6 単位
		地域社会系科目			人文地理学●	地域社会学● 都市文化論△				6 単位
	地域環境基幹科目			都市人間環境学▼ 地球環境論▼	生活環境科学▼ 環境と健康 (2 後～3 前) 環境経済学▽ 地球環境論演習▽	環境社会学 環境と健康 (2 後～3 前)	科学技術社会論▼			14 単位
	環境・社会関連科目					都市政策論▽	環境政策論▽ サステイナブルシティ論▽	NGO の設立と運営▽		12 単位
	環境・生活関連科目			基礎化学★	環境化学概論★	衣住環境工学★	生活材料学★	衣住環境工学実験★ 生活材料学実験★		10 単位
	環境デザイン関連科目			空間デザイン論☆ プログラミング演習☆	都市デザイン論☆ 空間デザイン演習 A (住居) ☆	空間デザイン演習 B (公共建築) ☆	パッシブシステムデザイン学☆			12 単位
	その他の科目区分							開発人類学		2 単位
卒業研究							卒業研究● (通年)		4 単位	
合計		21 単位 (11[15]科目)	28 単位 (13 科目)	20 単位 (11 科目)	25 単位 (14[15]科目)	13 単位 (6 科目)	11 単位 (6 科目)	4 単位 (3 科目)	6 単位 (2 科目)	128 単位 (66 科目)

●必修科目 ○英語の選択必修科目 ◎現代教養国際学選択必修科目 ◆現代教養新潟学選択必修科目 ◇現代教養文化と文明選択必修科目 ▲現代教養人間社会理解選択必修科目
 △学部共通選択科目 ▼地域環境コース基幹科目コース必修科目 ▽地域環境コース環境・社会関連科目選択必修科目 ★地域環境コース環境・生活関連科目選択必修科目
 ☆地域環境コース環境デザイン関連科目選択必修科目

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数		
	前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)			
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	Core English ●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	ESP I(基礎)● Reading I(基礎)△	ESP II(発展)● Reading II(発展)△					12 単位	
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I(基礎)●	体育講義●		自然とスポーツ□					5 単位	
	現代教養	国際学△△ 新潟県の子育て子ども家庭福祉□ 心理学□	生命科学△ 西洋音楽□	日本国憲法◇						12 単位	
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● 教育学概論◇ 人間発達心理学◇ 生活構造論●	社会福祉論□							10 単位	
	保育の本質と目標		児童福祉論● 教育原理●	保育原理 I(基礎)□ 養護原理□	社会福祉援助技術● 保育原理 II(発展)□ 幼児教育学● 教育制度◇	教職概論◇ 家庭教育□	幼児教育史□			22 単位	
	子どもの心とからだ	精神保健●	乳幼児発達心理学□	教育心理学●	カウンセリング論□	幼児理解・教育相談◇ 小児保健 I(基礎)●	小児保健 II(応用)□			14 単位	
	子どもの文化	幼児体育 A●	幼児体育 B●	音楽理論◇ 歌唱 I(基礎)□	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前) 子どもの造形●	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前) 造形基礎□				12 単位	
	保育の内容・方法			保育内容(人間関係 I 基礎)◇ 保育内容(環境 I 基礎)◇ 保育内容(表現 II 造形遊び基礎)◇ 障害児保育◇	保育内容(総論)● 保育内容(表現 I 音楽基礎)◇ 幼児教育課程論●	保育内容(言葉 I 基礎)◇ 保育内容(健康 I 基礎)◇	保育方法・技術△			20 単位	
	地域社会と福祉			障がい者福祉論●	家族援助論●			子育て支援の実際□			6 単位
	総合演習と教職実践演習					保育総合演習◇			教職実践演習◇	4 単位	
	実習に関する科目			幼稚園教育実習指導◇ 幼稚園教育実習 I(基礎)◇		幼稚園教育実習 II(発展)◇					5 単位
社会福祉士関連科目									—		
卒業研究							卒業研究●(通年)		4 単位		
合計	20 単位 (14 科目)	22 単位 (11 科目)	27 単位 (15 科目)	23 単位 (14 科目)	22 単位 (10 科目)	6 単位 (3 科目)	2 単位 (2 科目)	6 単位 (2 科目)	128 単位 (71 科目)		

●必修科目 △選択必修 □選択科目 ◇幼稚園教諭免許必修

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数
	前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)	
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	Core English ●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	ESP I(基礎)● Reading I(基礎)△	ESP II(発展)● Reading II(発展)△				12 単位
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I(基礎)●	体育講義●		ネットワークプレゼンテーション概論□				6 単位
	現代教養	国際学 A △ 新潟県の子育て子ども家庭福祉□ 心理学□	生命科学△ ジェンダー論□	日本国憲法□					12 単位
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● 人間発達心理学◇ 生活構造論●	社会福祉論◇ 地域福祉論□						10 単位
	保育の本質と目標		児童福祉論● 教育原理●	保育原理 I(基礎)◇ 養護原理◇	社会福祉援助技術● 保育原理 II(発展)◇ 幼児教育学●				14 単位
	子どもの心とからだ	精神保健●		教育心理学● 小児栄養◇	カウンセリング論□	小児保健 I(基礎)●	小児保健 II(応用)◇ 小児保健実習◇		15 単位
	子どもの文化	幼児体育 A ●	幼児体育 B ●	歌唱 I(基礎)□	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前) 子どもの造形●	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前)			10 単位
	保育の内容・方法			保育内容(人間関係 I 基礎)◇ 保育内容(環境 I 基礎)◇ 障害児保育◇ 乳児保育◇	保育内容総論● 保育内容(表現 I 音楽基礎)◇ 幼児教育課程論●	保育内容(言葉 I 基礎)◇ 保育内容(健康 I 基礎)◇ 保育内容(総合表現)□	養護内容◇		22 単位
	地域社会と福祉			高齢者福祉論 I(基礎)□ 障がい者福祉論●	家族援助論●	社会保障論 I(基礎)□	コミュニティ・ワーク論□	子育て支援の実際□	12 単位
	総合演習と教職実践演習					保育総合演習◇			2 単位
	実習に関する科目						学外実習指導◇ 乳幼児保育実習 I(基礎)◇ 施設実習 I(基礎)◇	乳幼児保育実習 II(発展)△	7 単位
	社会福祉士関連科目							権利擁護と成年後見制度□	2 単位
卒業研究							卒業研究●(通年)	4 単位	
合計	18 単位 (13 科目)	22 単位 (11 科目)	28 単位 (14 科目)	22 単位 (13 科目)	16 単位 (7 科目)	12 単位 (7 科目)	4 単位 (3 科目)	6 単位 (2 科目)	128 単位 (70 科目)

●必修科目 △選択必修 □選択科目 ◇保育士資格必修

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数
		前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)	
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	Core English ●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	ESP I(基礎)● Reading I(基礎)△	ESP II(発展)● Reading II(発展)△					12 単位
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I(基礎)●	体育講義●		自然とスポーツ□					5 単位
	現代教養	国際学△△ 生命科学△ 心理学□	西洋音楽□	日本国憲法◇	新潟県の保健医療□					12 単位
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● 教育学概論◇ 人間発達心理学◆ 生活構造論●	社会福祉論◆							10 単位
	保育の本質と目標		児童福祉論● 教育原理●	保育原理 I(基礎)◆ 養護原理◆	社会福祉援助技術● 保育原理 II(発展)◆ 幼児教育学● 教育制度◇	教職概論◇				18 単位
	子どもの心とからだ	精神保健●	乳幼児発達心理学◇	教育心理学● 小児栄養◆		幼児理解・教育相談◇ 小児保健 I(基礎)●	小児保健 II(応用)◆ 小児保健実習◆			17 単位
	子どもの文化	幼児体育 A●	幼児体育 B●	音楽理論◇	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前) 子どもの造形●	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前)				8 単位
	保育の内容・方法			保育内容(人間関係 I 基礎)◇◆ 保育内容(環境 I 基礎)◇◆ 保育内容(表現 II 造形遊び表現)◇ 障がい児保育● 乳児保育◆	保育内容(総論)● 保育内容(表現 I 音楽基礎)◇◆ 幼児教育課程論●	保育内容(言葉 I 基礎)◇◆ 保育内容(健康 I 基礎)◇◆	養護内容◆ 保育方法・技術△			24 単位
	地域社会と福祉			障がい者福祉論●	家族援助論●					4 単位
	総合演習と教職実践演習					保育総合演習◇◆			教職実践演習◇	4 単位
	実習に関する科目			幼稚園教育実習指導◇ 幼稚園教育実習 I(基礎)◇		幼稚園教育実習 II(発展)◇	学外実習指導◆ 乳幼児保育実習 I(基礎)◆ 施設実習 I(基礎)◆	乳幼児保育実習 II(発展)△		12 単位
社会福祉士関連科目									—	
卒業研究								卒業研究●(通年)		4 単位
合計		20 単位 (14 科目)	20 単位 (10 科目)	29 単位 (15 科目)	23 単位 (14 科目)	18 単位 (8 科目)	12 単位 (7 科目)	2 単位 (2 科目)	6 単位 (2 科目)	130 単位 (72 科目)

●必修科目 △選択必修 □選択科目 ◇幼稚園教諭免許必修 ◆保育士免許必修

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数
		前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)	
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	Core English ●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	ESP I(基礎)● Reading I(基礎)△	ESP II(発展)● Reading II(発展)△					12 単位
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I(基礎)●	体育講義●		自然とスポーツ□					5 単位
	現代教養	国際学 A △ 新潟県の子育て子ども家庭福祉□ 心理学◆	生命科学△ 西洋音楽□	日本国憲法◇						12 単位
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● 教育学概論◇ 人間発達心理学◇ 生活構造論●	社会福祉論◆ 地域福祉論◆							12 単位
	保育の本質と目標		児童福祉論● 教育原理●	相談援助の基盤 I(基礎)◆	社会福祉援助技術● 幼児教育学● 教育制度◇	教職概論◇				14 単位
	子どもの心とからだ	精神保健●	乳幼児発達心理学◇	教育心理学●		幼児理解・教育相談◇ 小児保健 I(基礎)●				10 単位
	子どもの文化	幼児体育 A●	幼児体育 B●		ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前) 子どもの造形●	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前)				8 単位
	保育の内容・方法			保育内容(人間関係 I 基礎)◇、保育内容(環境 I 基礎)◇、保育内容(表現 II 造形遊び基礎)◇ 障害児保育●	保育内容(総論)● 保育内容(表現 I 音楽基礎)◇ 幼児教育課程論●	保育内容(言葉 I 基礎)◇ 保育内容(健康 I 基礎)◇	保育方法・技術△			20 単位
	地域社会と福祉			高齢者福祉論 I(基礎)◆ 障がい者福祉論●	家族援助論●	社会保障論 I(基礎)◆ 社会福祉のニーズと政策◆	社会保障論 II(発展)◆ コミュニティ・ワーク論◆	高齢者福祉論 II(発展)◆ 公的扶助論◆		18 単位
	総合演習と教職実践演習					保育総合演習◇			教職総合演習◇	4 単位
	実習に関する科目			幼稚園教育実習指導◇ 幼稚園教育実習 I(基礎)◇		幼稚園教育実習 II(発展)◇				5 単位
	社会福祉士関連科目				相談援助の基盤 II(発展)◆	相談援助演習 I(基礎)◆ 社会調査法◆	相談援助の理論 I(基礎)◆ 相談援助の方法 I(基礎)◆ 相談援助演習 II(ケアマネジメント)◆	相談援助の理論 II(発展)◆ 相談援助の方法 II(発展)◆ 保健医療サービス論◆ 相談援助実習 I(基礎)◆ 相談援助実習指導 I(基礎)◆	相談援助演習 III(高齢者)◆ 相談援助演習 IV(障がい者)◆ 相談援助演習 V(発展)◆ 福祉行政と福祉計画◆ 福祉サービスの組織と経営◆ 就労支援サービス論◆ 相談援助実習 II(発展)◆ 相談援助実習指導 II(発展)◆	35 単位
卒業研究							卒業研究●(通年)		4 単位	
合計		20 単位 (14 科目)	24 単位 (12 科目)	23 単位 (13 科目)	21 単位 (13 科目)	26 単位 (12 科目)	12 単位 (6 科目)	11 単位 (7 科目)	22 単位 (11 科目)	159 単位 (88 科目)

●必修科目 △選択必修 □選択科目 ◇幼稚園教諭免許必修 ◆社会福祉士指定科目

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数
		前期 (1セメスター)	後期 (2セメスター)	前期 (3セメスター)	後期 (4セメスター)	前期 (5セメスター)	後期 (6セメスター)	前期 (7セメスター)	後期 (8セメスター)	
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	Core English ●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	ESP I(基礎)● Reading I(基礎)△	ESP II(発展)● Reading II(発展)△					12単位
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技I(基礎)●	体育講義●		自然とスポーツ□					5単位
	現代教養	国際学△△ 新潟県の子育て子ども家庭福祉△ 社会学◇	生命科学△ 西洋音楽□ 法学□							12単位
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● 人間発達心理学◆ 生活構造論●	社会福祉論◆◇ 地域福祉論◇							10単位
	保育の本質と目標		児童福祉論●◆◇ 教育原理●	保育原理I(基礎)◆ 養護原理◆ 相談援助の基盤I(基礎)◇	社会福祉援助技術● 保育原理II(発展)◆ 幼児教育学●					16単位
	子どもの心とからだ	精神保健●		教育心理学● 小児栄養◆		小児保健I(基礎)●	小児保健II(応用)◆ 小児保健実習◆			13単位
	子どもの文化	幼児体育A●	幼児体育B●		ピアノI(基礎)●(2後～3前) 子どもの造形●	ピアノI(基礎)●(2後～3前)				8単位
	保育の内容・方法			保育内容(人間関係I基礎)◆ 保育内容(環境I基礎)◆ 障害児保育●◆ 乳児保育◆	保育内容総論● 保育内容(表現I音楽基礎)◆ 幼児教育課程論●	保育内容(言葉I基礎)◆ 保育内容(健康I基礎)◆	養護内容◆			20単位
	地域社会と福祉			高齢者福祉論I(基礎)◇ 障がい者福祉論●	家族援助論●	社会保障論I(基礎)◇ 社会福祉のニーズと政策◇	社会保障論II(発展)◇ コミュニティ・ワーク論◇	高齢者福祉論II(発展)◇ 公的扶助論◇		18単位
	総合演習と教職実践演習					保育総合演習◆				2単位
	実習に関する科目						学外実習指導◆ 乳幼児保育実習I(基礎)◆ 施設実習I(基礎)◆	乳幼児保育実習II(発展)△		7単位
	社会福祉士関連科目				相談援助の基盤II(発展)◇	相談援助演習I(基礎)◇ 社会調査法◇	相談援助の理論I(基礎)◇ 相談援助の方法I(基礎)◇ 相談援助演習II(ケアマネジメント)◇	相談援助の理論II(発展)◇ 相談援助の方法II(発展)◇ 保健医療サービス論◇ 相談援助実習I(基礎)◇ 相談援助実習指導I(基礎)◇	相談援助演習III(高齢者)◇ 相談援助演習IV(障がい者)◇ 相談援助演習V(発展)◇ 福祉行財政と福祉計画◇ 福祉サービスの組織と経営◇ 就労支援サービス論◇ 相談援助実習II(発展)◇ 相談援助実習指導II(発展)◇	35単位
卒業研究							卒業研究●(通年)		4単位	
合計		18単位 (13科目)	24単位 (12科目)	26単位 (13科目)	21単位 (13科目)	20単位 (9科目)	20単位 (11科目)	13単位 (8科目)	20単位 (10科目)	162単位 (90科目)

●必修科目 △選択必修 □選択科目 ◆保育士免許必修 ◇社会福祉士指定科目

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位128単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数
		前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)	
基盤科目	外国語	Core English●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	Core English ●(通年) Writing ●(通年) Speaking ●(通年)	ESP I(基礎)● Reading I(基礎)△	ESP II(発展)● Reading II(発展)△					12 単位
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I(基礎)●	体育講義●		ネットワークアプリケーション概論□					6 単位
	現代教養	国際学 A △ 新潟県の経済と産業□ 新潟県の子育て子ども家庭福祉□ 心理学□ 社会学□	生命科学△ ジェンダー論□	新潟県の歴史と文化□ 日本国憲法□						18 単位
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● 人間発達心理学□ 生活構造論●	食と健康□ 社会福祉論□ 地域福祉論□							12 単位
	保育の本質と目標		児童福祉論● 教育原理●	保育原理 I(基礎)□	社会福祉援助技術● 保育原理 II(発展)□ 幼児教育学●	家庭教育□				14 単位
	子どもの心とからだ	精神保健●	乳幼児発達心理学□	教育心理学●	カウンセリング論□	小児保健 I(基礎)● 臨床心理学□				12 単位
	子どもの文化	幼児体育 A ●	幼児体育 B ●		ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前) 子ども文化□ 子どもの造形●	ピアノ I(基礎)●(2 後～3 前)				10 単位
	保育の内容・方法			障害児保育●	保育内容(総論)● 幼児教育課程論●		スポーツ心理学□			8 単位
	地域社会と福祉			高齢者福祉論 I(基礎)□ 介護福祉概論□ 障がい者福祉論●	家族援助論● 社会政策 I(基礎)□	社会保障論 I(基礎)□ 社会政策 II(発展)□	社会保障論 II(発展)□ コミュニティ・ワーク論□	子育て支援の実際□	公的扶助論□	22 単位
	総合演習と教職実践演習									—
	実習に関する科目									—
社会福祉士関連科目					社会調査法□		保健医療サービス論□、	福祉行財政と福祉計画□、福祉サービスの組織と経営□、権利擁護と成年後見制度□	10 単位	
卒業研究							卒業研究●(通年)		4 単位	
合計	22 単位 (15 科目)	26 単位 (13 科目)	18 単位 (10 科目)	24 単位 (14 科目)	16 単位 (7 科目)	6 単位 (3 科目)	4 単位 (3 科目)	12 単位 (5 科目)	128 単位 (70 科目)	

●必修科目 △選択必修 □選択科目

(注) 通年科目などの学期を越えて履修する科目の単位数の合計は、最終学期に含める。学期ごとの科目数は通年科目等の種類を問わず、当該学期に受講する延べの科目数である。

総合計に示す科目数は、卒業要件単位 128 単位に受講した実際の科目数である。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	
		前期 (1セメスター)	後期 (2セメスター)	前期 (3セメスター)	後期 (4セメスター)	前期 (5セメスター)	後期 (6セメスター)	前期 (7セメスター)	後期 (8セメスター)		
基盤科目	外国語	Core English● Writing● Speaking●	Core English● Writing● Speaking●	ESP I● Reading I● 基礎韓国語 I (入門)	ESP II● Reading II●					14 単位	
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I ●	体育講義●		ネットワーク・プレゼンテーション概論 □					6 単位	
	現代 教養	国際学		国際学 B△							12 単位
		新潟学	新潟県の子育て子ども家庭福祉△								
生命科学			生命科学△								
人間社会理解	心理学□ 科学技術概論□		日本国憲法□								
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● おいしさの科学□ 生活構造学●	社会福祉論□							8 単位	
	専門基礎分野	社会・環境と健康			公衆衛生学総論●◇	公衆衛生学各論●◇	疫学●◇				6 単位
		人体の構造・機能及び疾病の成り立ち				健康管理学概論●◇ 健康管理学各論 I (疾病) ●◇ 生化学 I (機能) ●◇	人体の構造と機能 I (解剖) ● ◇ 健康管理学各論 II (診断治療) ●◇ 健康管理学実習●◇ 生化学 II (代謝) ●◇ 生化学実験 I (基礎) ● ◇	人体の構造と機能 II (生理) ● ◇ 生化学実験 II (応用) ● ◇ 解剖生理学実験●◇			18 単位
		食べ物と健康			食品学総論●◇ 調理学実習 I (基礎) ● ◇ 食品衛生学●◇ 食品衛生学実験●◇	調理学実験●◇ 食品学特論●◇	食品学実験●◇ 食品学実習●◇ 調理科学●◇	調理学実習 II (応用) ● ◇ 食生活学●◇			16 単位
		関連科目									
	専門分野	基礎栄養学		基礎栄養学 I (栄養素) ●◇		基礎栄養学実験●◇					3 単位
		応用栄養学			応用栄養学 I (栄養管理) ●◇	応用栄養学 II (母性・成長期) ●◇	応用栄養学 III (成人・高齢期) ●◇ 応用栄養学実習●◇				7 単位
		栄養教育論			栄養教育総論●◇	栄養教育各論●◇	栄養教育実践論●◇	栄養教育実習●◇			7 単位
		臨床栄養学				臨床栄養学 I (基礎) ●◇	臨床栄養学 II (基礎) ●◇ 臨床栄養学実習 I (食事療法) ●◇	臨床栄養学 III (応用) ●◇ 臨床栄養学実習 II (栄養管理) ●◇	臨床栄養学 IV (栄養教育) ●◇		10 単位
		公衆栄養学					公衆栄養学 I (基礎) ●◇	公衆栄養学 II (応用) ●◇ 公衆栄養学実習●◇			5 単位
		給食経営管理論					給食経営管理論 I (基礎) ●◇ 給食経営管理実習 I (基礎) ● ◇	給食経営管理論 II (応用) ●◇ 給食経営管理実習 II (応用) ● ◇			6 単位
		総合演習		総合演習 I (基礎) ●◇							2 単位
		臨地実習						臨地実習 I (学校・福祉施設) ●◇	臨地実習 II (病院) ●◇	臨地実習 III (保健所) ● ◇	4 単位
	卒業研究							卒業研究●		4 単位	
合計		15 単位 (8(11)科目)	19 単位 (9 科目)	18 単位 (11 科目)	22 単位 (13 科目)	27 単位 (17 科目)	18 単位 (13 科目)	4 単位 (2 科目)	5 単位 (2 科目)	128 単位 (75 科目)	

●必修科目 △選択必修 □選択科目 ◇管理栄養士免許必修 ◆栄養教諭免許必修

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	
		前期 (1 セメスター)	後期 (2 セメスター)	前期 (3 セメスター)	後期 (4 セメスター)	前期 (5 セメスター)	後期 (6 セメスター)	前期 (7 セメスター)	後期 (8 セメスター)		
基盤科目	外国語	Core English● Writing● Speaking●	Core English● Writing● Speaking●	ESP I● Reading I● 基礎韓国語 I (入門)	ESP II● Reading II●					14 単位	
	基本技能	情報リテラシー● 体育実技 I ●	体育講義●		ネットワーク・プレゼンテーション概論 □					6 単位	
	現代教養	国際学		国際学 B△							12 単位
		新潟学	新潟県の子育て子ども家庭福祉△								
		生命科学		生命科学△							
人間社会理解	心理学□		道德教育※ 日本国憲法※								
展開科目	学部共通科目	人間生活学概論● おいしさの科学□ 生活構造学●	社会福祉論□							8 単位	
	専門基礎分野	社会・環境と健康			公衆衛生学総論●◇	公衆衛生学各論●◇	疫学●◇				6 単位
		人体の構造・機能及び疾病の成り立ち				健康管理学概論●◇ 健康管理学各論 I (疾病) ●◇ 生化学 I (機能) ●◇	人体の構造と機能 I (解剖) ● ◇ 健康管理学各論 II (診断・治療) ● ◇ 健康管理学実習●◇ 生化学 II (代謝) ●◇ 生化学実験 I (基礎) ● ◇	人体の構造と機能 II (生理) ● ◇ 生化学実験 II (応用) ● ◇ 解剖生理学実験●◇			18 単位
		食べ物と健康			食品学総論●◇ 調理学実習 I (基礎) ● ◇ 食品衛生学●◇ 食品衛生学実験●◇	調理学実験●◇ 食品学特論●◇	食品学実験●◇ 食品学実習●◇ 調理科学●◇	調理学実習 II (応用) ● ◇ 食生活学●◇			16 単位
		関連科目									
	専門分野	基礎栄養学		基礎栄養学 I (栄養素) ●◇		基礎栄養学実験●◇					3 単位
		応用栄養学			応用栄養学 I (栄養管理) ●◇	応用栄養学 II (母性・成長期) ●◇	応用栄養学 III (成人・高齢期) ●◇ 応用栄養学実習●◇				7 単位
		栄養教育論			栄養教育総論●◇	栄養教育各論●◇	栄養教育実践論●◇	栄養教育実習●◇			7 単位
		臨床栄養学				臨床栄養学 I (基礎) ●◇	臨床栄養学 II (栄養管理) ●◇ 臨床栄養学実習 I (食事療法) ●◇	臨床栄養学 III (栄養評価) ●◇ 臨床栄養学実習 II (栄養管理) ●◇	臨床栄養学 IV (栄養教育) ●◇		10 単位
		公衆栄養学					公衆栄養学 I (基礎) ●◇	公衆栄養学 II (応用) ●◇ 公衆栄養学実習●◇			5 単位
		給食経営管理論					給食経営管理論 I (基礎) ●◇ 給食経営管理実習 I (基礎) ● ◇	給食経営管理論 II (応用) ●◇ 給食経営管理実習 II (応用) ● ◇			6 単位
		総合演習		総合演習 I (基礎) ●◇							2 単位
		臨地実習						臨地実習 I (学校・福祉施設) ●◇ 臨地実習 II (病院) ●◇ 臨地実習 III (保健所) ● ◇			4 単位
	卒業研究							卒業研究●		4 単位	
合計	15 単位 (8(11)科目)	19 単位 (9 科目)	20 単位 (12 科目)	22 単位 (13 科目)	27 単位 (17 科目)	18 単位 (13 科目)	4 単位 (2 科目)	5 単位 (2 科目)	128 単位 (75 科目)		
教職科目		教職の意義◆	教育心理学◆	教職原理◆ 教育制度◆ 特別活動の研究◆	学校栄養教育総論◆ 生徒・進路指導◆	教育方法・技術◆ 学校栄養教育各論◆ 教育相談◆ 教職総合演習◆	教育課程◆ 学校栄養実践演習◆ 学校栄養教育実習指導◆	学校栄養教育実習◆ 学校栄養教育実習指導◆	28 単位		
合計	15 単位 (8(11)科目)	21 単位 (10 科目)	20 単位 (12 科目)	27 単位 (16 科目)	31 単位 (19 科目)	26 単位 (17 科目)	8 単位 (4 科目)	8 単位 (4 科目)	156 単位 (90 科目)		

実験・実技科目で使用する教具等の整備状況

科目名	備品・設備	教室
ピアノⅠ ピアノⅡ 保育内容（表現Ⅰ音楽基礎） 保育内容（表現Ⅲ音楽応用） 保育内容（総合表現） 音楽理論 子どもの音楽 歌唱Ⅰ 歌唱Ⅱ	アップライトピアノ 17、グランドピアノ 10、 クラビノーバ 1、ハモンドジュニア 1、ハンド ベル 2 セット、アコーディオン 4、オーディオ 機器 1 セット、譜面台 5、指揮台 1、マリンバ 1、 ドラムセット 1、大太鼓 1、小太鼓 3、グロッケン 3、木琴 5、リズム積木セット 10、オートハー プ 1、キンダーライアー 1、可動式五線黒板 4、 三味線 4、教育用擬音楽器 5、パネルシアターセ ット 2、タンバリン 20、すず 30、マラカス 2 組、 ビブラスラップ 1、オカリナ 2、フレクサトーン 1、カズー 10、ドラ 1、クラベス 1、ボンゴ 1、 カウベル 1、スレイベル 2、ウッドブロック 2、 バーチャイム 1、トライアングル 3、カスタネット 20、キューカ 1、アゴゴベル 1、スリットド ラム 1、キッズパーカッション 1 式、MD ラジカ セ 2、など。	音楽室 レッスン室 ピアノ練習室
体育実技Ⅰ（基礎） 体育実技Ⅱ（展開） 幼児体育 A （調整運動） 幼児体育 B （ボール運動） 運動技能 A （器械運動） 運動技能 B （表現運動）	体操用マット 10 枚、セイフティーマット 8 枚、 平均台（大）3 台、平均台（小）4 台、高跳びセ ット 4 組、トランポリン 2 台、自転車エルゴメ ーター 4 台、鉄棒 3 台、跳び箱 5 台、段違い平行 棒 1 台、バレーボール支柱・ネット 4 組、バド ミントン支柱・ネット 10 組、バスケットゴール 6 台、テニス支柱・ネット 15 台、卓球台 5 台、 テニス練習用マシン 6 台、蘇生法練習器（大）5 台、蘇生法練習器（中）2 台、蘇生法練習器（小） 5 台、テニスラケット 100 本、バドミントンラ ケット 60 本、卓球ラケット 40 本、グローブ 40 個、フライングディスク 40 枚、フラフープ 40 本、各種ボール 20～500 個、縄跳び（大）10 本、 縄跳び（小）30 本、大鏡 4 台、オーディオ機器 （大）2 台、オーディオ機器（小）2 台、審判台 4 台、得点板 6 台、巻き尺 5 個、ハードル 20 台、 マーカーコーン 20 個、プロジェクター 1 台など。	第 1 体育館 第 2 体育館 テニスコート 多目的グラウンド

科目名	教具等の設備	教室
図画工作 造形基礎 子どもの造形	カルトン40枚、イーゼル50基、卓上イーゼル50基、石膏像15体、静物模型2組、版画ローラーセット5組、版画プレス機2台、トレス台10台、造形遊び用ローラー1セット、電動糸鋸5台、木工用具セット40組、金工用具セット6組、電気陶芸釜1基、温度計1、電動ろくろ3台、粘土板50枚、乾燥棚2台、整理棚1台、木工机14台、木工椅子50台、美術室用生徒机45台、美術室用椅子45台、電動かんな3台、裁断機1台、金切りばさみ20個、木槌30本、電動砥石1台、七宝焼き釜1台、キリ20本、ドライバー20本、色立体1基、バット50枚、モデル台1台、コンプレッサ1台、木版画用ブラシ10個、展示パネル25台	図画工作室 美術室
小児保健学実習	沐浴人形体18、 ベビー服20枚、ベビー用下着20枚、おしめカバー20枚、布おむつ40枚、紙おむつ40枚、 3才小児モデル人形1、人形用服上下1着、小児用ベッド一式、ベッド用掛布とん・敷き布団・毛布・シーツ・枕 沐浴用ベビーバス9個、洗面器10個、お湯汲みバケツ3個、水温計10個、バスタオル40枚、ガーゼハンカチ40枚、沐浴布20枚、ほ乳瓶大・中・小各20本、乳首60個、魔法瓶8個、身長計（新生児用1、小児用1、成人用1個）体重計 {新生児用1、小児用1、成人用1} 身体計測用巻き尺25個、体温計35本、血圧計5個、小児専用視力検査用表2枚、包帯10種類×10枚 おんぶひも8式、 糞便モデル2式、プロジェクター1台、プロジェクター用スクリーン1枚 カセットデッキ1台、聴力計1台	1119室 1118準備室

科目名	教具等の設備	教室
介護福祉概論 介護福祉支援技術	車椅子14台、ベビーカー1台、交互型ウオーカー2台、歩行器1台、松葉杖1組、カナディアンクラッチ1組、4点支柱型歩行器1組、差し込み便器3個、簡易尿器2個、ポータブルトイレ1個、ビーズマット4個、ベットサイドテーブル1台、ベットマットレス4個、毛布4枚、タオルケット4枚、シーツ4枚、枕4個、パジャマ上下4組、浴衣4枚コンパクトミシン1台、ワゴン台1個、ベット3台、電動ベット1台、流し台1台、コンロ台1台、ガスコンロ1台、瞬間湯沸かし器1台、冷蔵庫1台、包丁3個、まな板3枚、吸い飲み10個、すくいやすい食器5個、食べやすい箸5組、食べやすいスプーン5個	生活福祉実習室
心理学 臨床心理学 人間発達心理学	箱庭療法（箱庭、人形、小玩具等）、ロールシャッハ図版、TAT 図版、WAIS-R、WISC-III知能検査、田中ビネー知能検査など	心理学実験室 児童心理学実験室
給食経営管理実習Ⅰ（基礎） 給食経営管理実習Ⅱ（応用）	品質管理測定機器一式、作業管理測定器一式、配膳車、コールドテーブル冷蔵庫、ウオーマータブル、給食実習用具一式、台秤、製氷機、合成調理機、球根皮剥機、ガス焼き物器、釜、ガス煮炊釜、立体炊飯器、スチームコンベクションオーブン、フライヤー、食器シンク（煮沸消毒槽）、消毒保管庫、包丁まな板殺菌庫、器具洗浄シンク、器具消毒保管庫（2台）、食器消毒保管庫（2台）、スターラー（攪拌機）、ガスレンジ、冷凍冷蔵庫（2台）、パススルー冷凍冷蔵庫冷凍庫、ブラストチラー、スーパーフリーザー、調理シンク、ドライ式移動台、二槽シンク、ソイルドテーブル、ラック、他	給食経営管理室

科目名	教具等の設備	教室
栄養教育実践論 栄養教育実習	テレビ, ビデオプロジェクター(2台), 教材用ビデオ, VTR 受像編集機器, パソコン (4台), 食品交換モデル (100種), ベーシックフードモデル(41種), 離乳食用調理基本モデル(29種)、他	栄養教育実習室
臨床栄養学実習Ⅰ (食事療法) 臨床栄養学実習Ⅱ (栄養管理)	皮下脂肪計 (5台) 体内脂肪計 (2台) 採血・採尿用具一式トレッドミル自転車エルゴメーター 食事介助器具一式経腸栄養用具一式経静脈用具一式電動リモートコントロールベッドパソコン (2台) パソコンソフト (2種) 人体解剖模型、他	臨床栄養実習室
健康管理学実習 解剖生理学実験	天秤, ストマカー, 血圧計, 光電反射計, コロニーカウンター, 血清リポタンパク検出装置, 架台精密安定電源, 天秤 (4台), 振とう機, カラムエーシング装置, ケルダール窒素分解蒸留装置, ロータリーエバポレーター, 蒸留水製造装置, 遠心機 (3台), 解剖用具, 心拍記憶装置 (2台), 心拍記録装置, 間接エネルギー代謝計, 超音波洗浄器, 乾燥器 (2台), 送風低温乾燥機, 乾熱滅菌器, 高圧滅菌器, 恒温恒湿庫, 恒温槽 (3台), 電気泳動槽, 恒温器, 顕微鏡台, 顕微鏡(10台), 冷蔵庫, 人体模型, 組織標本, 実験台及び流し台、他	生理学衛生学実験室
食品学実験	パン焼器, 缶巻締機, カラムエーシング装置, 恒温槽, 超音波洗浄機, 電気マッフル炉, 振とう機, ケルダール窒素分解蒸留装置, 天秤 (2台), 乾燥機 (2台), ロータリーエバポレーター, 冷凍庫, 実験台	食品学実習室

科目名	教具等の設備	教室
調理学実験 調理学実習Ⅰ（基礎） 調理学実習Ⅱ（応用）	炊飯器，包丁まな板布巾乾燥殺菌庫，冷蔵庫，ガスレンジ(10台)，ガスオーブン（3台），オープンレンジ，離乳期食模型，保健食模型，調理台（12台），流し（12台），食器戸棚（12台），実験台，粘度計（2台）食品物性試験機，厚さ測定器，パソコンソフト（2種）、他	調理学実習室
基礎栄養学実験 応用栄養学実験	光分解装置，記録計（熱量計用プリンター），熱量計振とう機，送風低温乾燥器，乾燥器（凍結乾燥器），サーモボックス，電気マッフル炉，蛍光光度計，光電光度計（3台），分光光度計，紫外可視分光光度計，ロータリーエバポレーター，高速薄層クロマトスキャナー，冷蔵庫，遠心機（5台）	栄養学実験室
生化学実験Ⅰ（基礎） 生化学実験Ⅱ（応用） 食品衛生学実験	トランスイルミネーター，フラクションコレクター，顕微鏡，恒温振とう培養装置，振とう機，モノシンキャピラリーカラムホルダー，超音波洗浄機，蒸留水製造装置，クールパイプ，無菌箱，サーマルサイクラー，遺伝子導入装置，ウォーターバス(2台)，電気泳動装置，液体クロマトグラフ（5台），フラクションコレクター，液体クロマトグラフ示差屈折計検出器，液体クロマトグラフ，ダンパー窒素置換装置アミノ酸分析システム，アスピレーター（2台），乾燥機，乾燥器，低温恒温槽，恒温器，自動温度調整器，超純水製造装置，天秤（3台），ガスクロマトグラフ及び関連装置（10台），冷凍庫，冷温庫，ペリスタミニポンプ，遠心分離器，スターラー（攪拌機），ドラフトチャンバー，実験台（4台），薬品戸棚（2台）、他	分析機器実験室 （低温実験室） （培養実験室） （動物実験室）
生活科学実験	分光光度計，伝導度計，pHメーター，アスピレーター，糖度計，塩分計，表面温度計，恒温槽，上皿電子天秤，乾燥機，紫外線測定器，スターラー	材料加工実験室
衣住環境工学実験	温度・電圧計測ユニット，天秤，クリモマスター風速・温湿度計，ガスメーター，照度計，輝度計，データ処理装置，デジタルマルチメーター	環境評価学実験室